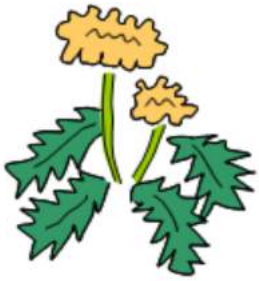
たんぽぽ

NO.440
R6年4月1日
-発行-
〒869-1217
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
☎096-293-8100



「窓辺の微笑み」

施設長　木下 昭二

この原稿を書いている今現在、施設内はほぼ満開の桜で、とても心を和ませてくれています。

そのようなウキウキする気持ちとは裏腹に、先日三気の里の初代施設長を務められた、土井尚典（どい なおみち）先生の訃報が届きました。今更遅いのですが、「どうなさっているのか」と気になりつつも、行動に移しておらず、残念でたまりません。

ここに在りし日の土井先生を偲び、追悼の意を込めて思い出を綴りたいと思います。

土井園長（当時は、そうお呼びしていたので、ここではそう呼ばせていただきます）と創設者の田中 稔先生との出会いは、大学時代の先輩と後輩の間柄だったと聞いています。（以下、私の拙い記憶ですので、正確ではないかもしれません。お許し下さい）その後、先輩の田中先生は医学の道へ、土井園長は心理学の道へと進まれています。卒業後、静岡県内の施設に勤務されるなどの経験を積まれ、田中先生が三気の里を開設されるにあたって、土井園長に声を掛けられたのが三気の里の始まりです。開設当初は定員50名に対して利用者さん20数名でのスタートでした。にもかかわらずスタッフは定数を揃えて頂いていたので、今でこそ解るのですが経営的にはとても大変な状況だったと思います。しかし、支援スタッフが一緒にスタートを切り、同じような支援力を身につけられるように…という配慮の下での配置でした。

スタッフは、ごく数名を除いて自閉症者に対しての支援の経験がない中でのスタートでしたので、毎日「何が正解か解らない」手探り状態の中で、悪戦苦闘しながら実践を繰り返していた…という状況でした。そんな中でも、新規の利用者さんの「情緒が安定せず、寝付けない」と聞いては、担当者が近くで見守って、寝付かれてから帰宅するなんてことは、日常的なことでしたし、ある時は、帰園された利用者さんが「車から降りない」という時には、利用者さんの「気持ちに整理をつけてもらう為」にお母さんに車を施設に置いて帰ってもらい、スタッフは「押すでもなく、引くでもなく、ただひたすら説得して」本人が納得して車から降りるように促し続けることもありました。また日によっては、「明日のAさんの支援方針を考える為」に深夜までミーティングを重ね、そんな時でも土井園長はスタッフに付き合って、出した結論には「やってごらん」と後押しし、「失敗してもいい経験になるよ」と言わんばかりの微笑みで見守って下さったり、ある時は、さりげなく「こんな方法もあるよ」とヒントを下さって、そのヒントに対して、どのような導入方法ややり方を取るのかは、スタッフに考える余地を残されていました。そのことで私たちスタッフは、色々なアイディアや方法を考えることを止めず、利用者さんと「こんき」強く、真摯に向き合えていました。

今は昔の昭和の時代での話であり、今のスタッフさんに、同様のことを求めませんが、「利用者さんと真摯に向き合う一生懸命な気持ち」については、きちんと伝えなければならないと改めて思っています。職員室の窓辺の椅子に座って、微笑んでいる姿そのままの土井園長の遺影に、そのことを強く誓いました。三気の里の基礎を育てて下さり、ありがとうございました。

心よりご冥福をお祈りいたします。

「明るい笑顔でスタート」

今年度、1班のリーダーに復活しました。最年長のリーダーと囁かれていますが・・・長いこと、1班の皆さんと共に笑い、共に仕事を頑張り、共に色々なことを楽しんできました。そんな中でも、利用者さんの笑顔に救われることが多いなと感じます。声を出して笑う人もいれば、ニコニコ笑顔の人もいて、それを見ていると、笑顔は人も自分も幸せにする力があるんだなぁと実感します。

「笑う門には福来る」と言うことわざがあります。この意味は、「いつも笑い声が満ち、和気藹々とした家には、自然と幸福が巡ってくるものである」という意味があるそうです。このことわざでは「門＝家、家族」としているようです。笑いや笑顔には、人も自分も幸せにする力があるのではないかと思います。今年の1班は、新しいスタートを「明るい笑顔」で始められたらと思っています。保護者の方の笑顔も大募集しています！

今年は笑顔いっぱいの1年になりますように・・・

副主任　八木　良江

「ズキズキ、ドキドキ、ワクワク」

今年度より、2班のリーダーを務めさせていただくことになりました。入職してもうすぐ5年が経ちますが、この大役を仰せつかることが分かった3月中旬より、私の心は不安からか「ズキズキ」と痛みに近いものを感じることが正直ありました。ダメですね、無意識に表情や声色に気持ちが現れていたのでしょう…利用者さんはとても敏感で、Aさんからは「杉本さん、元気ないですね」と声を掛けられてしまうことがあり猛省しました。上司への相談や班メンバーにこの先の不安を聞いてもらう中で、前向きな言葉をもらえ徐々に気持ちを切り替えられるようになったのが3月末。今では「ドキドキ」といった緊張の中に微かな「ワクワク」といった期待が芽生えています。前任のリーダーの動きを真似ようとしても無理ですが、私なりの考えやアイデアを積極的に打ち出しながら新生2班を班メンバーと一緒に盛り上げて行きたいと思っています。そして、「ワクワク」を利用者さんへも伝播させ活気溢れる班作りを目指していきたいです。

副主任　杉本　安代

「3班」

今年度の班での指針は「つなぐ」「よりそう」「おもいやる」を柱として取り組みを行なっていきます。「つなぐ」家族間、スタッフ間での漏れのない、報告、連絡、相談。家族の方々は利用者の方々の園内での生活は、漠然としかわからないだけに、些細な事でも不安に思われる方も多いと思います。特に利用者さんが体調を崩された、何らかの事情で通院をされた際に報告、経過連絡の遅れが心配を増してしまう事に繋がってしまいます。「よりそう」親身になって相手の気持ちを理解しようと努め、共感する。一つの行動、状態にも様々な理由や、背景があると思います。よりそうことで解決に繋がる事もあるかも知れません

最後に「おもいやる」相手の気持ちに配慮し、相手が何を望みどんな気持ちかを注意深く考えて接する事で、色々な思いが和らぐ事もあるかも知れません。みんなが幸せを感じ、そしてやりがいを感じ、利用者さん、家族の方々が安心して暮らせるよう、スタッフ一同切磋琢磨して努めていければと思います。

副主任　久米　善久

「だからこそ」

今年度、4班のリーダーを務めさせていただくことになりました相馬敦です。4班に入り2年目になります。私が4班に入って印象的だったのはおやつの時間でした。三気の里にはおやつの時間があり、4班は、6畳の和室で食べています。そこでは、作業を頑張ったことを話してくれる方、通院などで不在の利用者さんのことを心配される方、お互いが今日1日を労い、思いやる会話が聞こえます。利用者さん、スタッフが顔を見合わせてお喋りができる憩いの場です。1日のうちでもゆったりとした、和やかな時間が流れています。時には音楽を流しながら、みんなでおやつの時間を楽しみます。

4班の利用者さんは、他班と比べると年齢層が高く、出来ることが限られることはあります。だからこそ、4班らしく楽しめること、出来ること、作っていけることもあると思っています。スタッフみんなで知恵を出し合って、力を合わせていきたいと思います。

副主任　相馬　敦

「リスタート」

今年度より、5班リーダーを務めさせて頂きます松村雄一です。私は入社して17年目を迎え、入所班で得た16年の経験を活かしながら、新たに学ばせて頂こうと考えています。今年度の目標としては、個別支援の聞き取りで挙げられていた「健康面」「意思疎通」「外出・買い物」「作業」「余暇活動」「身嗜み」の６つを柱とし、利用者さん15名の方々との関わりをより一層深めていきたいと考えています。また、スタッフ一人ひとりが「初心」を思い出せるような、楽しい雰囲気作りにも力を入れていきます。

最後に、楽しい生活を送る為には身体が元気であることが第一です。利用者さん、スタッフ、そして自分自身の体調にも気を配りながら、利用者さん15名、スタッフ4名、総勢19名で令和6年度・新生5班での新年度をスタート致します！

副主任　松村　雄一

療育雑記

「伝えること　伝えられること」

療育課長　岩田　幸児

「洗濯物畳み！」ある日のＡさんの言葉です。

Ａさんは、コミュニケーションにおいて、単語で意思を伝えます。支援者からの伝達は、言葉や文字、イラストを使って伝えます。表出される言葉に比べて理解されていることは、比較的高いのではないかと思っています。前述した「洗濯物畳み！」は、レクリエーションに出掛けた際、おやつ後に発せられた言葉です。当日利用者さんにお渡ししたしおりには、「おやつ」→「三気の里」となっていました。Ａさんは、楽しみにしていた「おやつ」を食べた後に、三気の里に戻った後、何をするか？が気になっての言葉だったのだと思います。「洗濯物畳み！」と言われて、「そうですね。上手に伝えられましたね。」「お風呂ありますよ。」「お風呂の準備をしましょうね。」と返答しました。暫くすると、それまで、緊張が見られていた表情も少し柔らかくなり。その後、笑顔に変わっていきました。

Ａさんは、単語で意思を伝えることができます。しかし、常にスムーズに伝えられるわけではなく、大半が気になっていること、確認したいことがあっても、上手く伝えられず、頭の中で考えているうちに、緊張がどんどん高まり、自らを傷つける行為に至る事さえあります。

要因は、様々だと思います。伝えられる人が、近くに居ない。伝えるきっかけが掴めない。どう伝えたらいいか分からない。等…。

施設の支援では、意思表示や行動がスムーズに出来難い利用者の方の思いや行動を先読みして、つい支援者側が介助してしまうことがあります。コミュニケーションにおいても同様で、上手く言葉で表現出来ない方の思いを汲み取ることで、言葉で伝える機会を奪ってしまう恐れもあります。Ａさんに対しては、気になっていることを、言葉で確認できるようになる（伝えられる）為の支援として、彼の言葉を引き出すことを意識して関わってきました。具体的には、毎日の挨拶から始まり、健康状態の確認（排泄の有無など）、日課の中で次の活動の確認、定時の点眼の要求（眼科の疾患の為、点眼が必要）等です。他職員に確認すればわかる事柄でも彼に確認し、排泄に付き添ったのは？点眼をしたのは？と彼が記憶を振り返りながら考えて、言葉にして伝えるやり取りを大切にしてきました。

このようなやり取りを続けてきた中で、色々なことを教えてもらいました。その一つは、コロナウイルス感染症の感染が拡大した年。年越しから1ヶ月余りを経た2月。「大晦日」と数日にわたり伝えてくるＡさん。大晦日に何かあったかと思い返しました。例年半数近くの利用者の方が自宅に帰省され、普段皆さんが余暇を過ごされるプレイルームにこたつを準備し、皆で「紅白歌合戦」を見るのが、毎年の三気の里の大晦日でした。しかし、その年の年末は帰省を控えて頂いた為、例年とは違った雰囲気の大晦日だったのです。ハッとしました。そのことが気になっているのではと思い、「大晦日に紅白歌合戦はありますよ。」と伝えると、その後の訴えは無くなりました。彼の『大晦日』は、例年の大晦日と違ったことを、彼自身が消化しきれず、来年はどうなのかということを上手く伝えられなかった『大晦日』だったのではないかと思っています。そのことに早く気付いて、伝えられなかったこと。それ以前に、変化への対応が出来難いということを解っていながら、事前に支援ができなかったことを反省し申し訳なさを感じた出来事でした。

このようなエピソードがいくつもあります。その度にＡさんの思っていることを知れた喜びと同時に伝え辛さを抱えている彼の不安や生きづらさを感じています。

「伝わるように、伝えられる」ようになることが、Ａさんにとっての生活のしやすさ、安心に繋がると信じて、これからも支援を続けていきたいと思います。

G工便り

「脱・弁当の日パートⅠ　ひだまりの巻」

事業課長　平川　聖子

2月28日。ついにその日がやってきました。夕方、仕事から帰って一息ついたら、車に乗り込み西原村へ。風薫るパスタは生パスタのお店、ピザも人気です。お肉や魚が苦手な人も、みんなで楽しめるお店をと今月の係の利用者さんが選んでくれました。メニューは「パスタディナー」「ピザディナー」「お肉ディナー」。それぞれに、パスタの味、ピザの味、飲み物、バゲットの味を選ぶのですが、メニューを開いて10秒で即決の人もあれば、自分の健康状態に合わせてアドバイスを聞きながら決める人も。迷いに迷って注文が終わるまでに10分程かかりました。あとは待つだけと冷静になると、「ここは前にも来たことがあるね」と思い出話に。前に来たのは令和元年の6月、なんと4年8か月ぶり。3年も外食できず、たまに食べる弁当が楽しみの日々。今年は外食の機会をうかがっては実現できない状況が続き、やっと「脱・弁当の日」となりました。毎日積み重ねてきた食事マナーで、穏やかで楽しい食事会。これからパートⅡ、パートⅢとつなげていきます。

BeTREE

「リスタート」

支援員　有馬　幸奈

BeTREEは、利用者さん14名、スタッフ4名の計18名で新年度がスタートしました。昨年度実習に来ていただいた2名の方が、BeTREEの一員となり新年度を迎えることができたこと、とても嬉しく思います。迎える側の私自身も、緊張感はありますが、新しい環境に早く慣れていただけるよう、仕事環境や仕事の提供の仕方を工夫するとともに、散歩などでの会話も大切にして、様々な“想い”に寄り添えるよう努めていきたいと思います。

仕事がメインのBeTREEですが、毎月のパン購入や、年に2回のレクリエーションといった楽しみを励みに頑張られている方もたくさんいらっしゃいます。昨年度は、ビームライフル体験や、その場で計算・メモをしながらの回転寿司など、普段なかなかできないことも皆で経験し楽しむことができました。

今年度もモチベーションを大事にしつつ、毎日の仕事を皆さんが頑張れるようサポートしていきたいと思います。

事務便り

「寝耳に水」

事務長　寺田　逸朗

三気の会では、県の委託を受けて平成14年12月より発達障害者支援センター事業を営んできました。

発達障がい児者への総合的な支援を行うための拠点として、各関係機関と連携をとりながら相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発・研修などの事業を行うため、経験豊富な専門人材を配置し、委託料で賄いきれない経費は法人から持ち出してまで質の高い支援にこだわってきたのは、この事業が社会福祉事業と思い込んでいたからです。

ところが昨年10月に「障害者相談支援事業等に係る社会福祉法上の取扱い等について」という事務連絡が出て、発達障害者支援センター事業は社会福祉事業には該当しないということが明らかとなりました。他に町の基幹相談支援センター事業、熊本市の児童発達支援センター機能強化事業も社会福祉事業ではなく収益事業とのことでした。

社会福祉法人がまさかの収益事業を行っていたという事実に驚いてばかりもおられず、実費弁償による事務処理の受託等の確認申請に追われているところです。後進には行政からの委託だからとよく調べもせずに受託することは避け、法人の目的に沿った事業であるかをよく見極めるよう伝えたいものです。

4月スケジュール

04/01(月)　新任式・辞令交付式
04/02(火)　世界自閉症啓発デー
04/03(水)　避難訓練
04/07(日)～08(月)
　　わっふる自閉症啓発デー出展(大津イオン)
04/13(土)　家族会・スタッフ会議
04/16(火)　田中Dr ケースカンファレンス
04/17(水)　誕生会
04/19(金)　ゴールドクラブ、アンパの日

毎週月曜日　訪問理容サービス
毎週火曜日　BeTREE役場販売

BeTREE
＜営業時間＞9:30～17:30

betree314

新任式

「新任式」

支援員　船津　朋世

三気の里の桜も見頃を迎え、新たな出会いを連れてきてくれているかのようです。今年は晴天にも恵まれ、新しい職員6名を迎えることが出来ました。

体育館で行われた新任式では、利用者の皆さんはどんな新しい職員が来られるのか、興味津々で話を聞かれていました。中には、「下の名前が一緒」であるとか、名札をしっかり確認され喜ばれている様子がありました。

その後は、各班に別れて顔合わせを行い、職員と利用者互いに挨拶を交わし、今年一年も頑張っていこうと気を引き締める大切な日となりました。

今年一年、三気の里での生活が、利用者の皆様にとってより良いものになるよう支援していけたらと思います。

沢山のご厚意
ありがとう
ございます

【寄付物品】

赤星 央子様　金森 保様
小牧 博則様　井上 優様
田中 満子様　櫻木 勇夫様
清田 栄一様　渡邉 正司様
松村 俊介様　中村 秀隆様
吉田 和信様　東坂 富士代様
森川 琇介様　佐々木 英征様
魚谷 秀文様　井手上 昌子様

【後援会】

米村 秋江様　勇 明子様
大森 理央様　宮城 千恵様
田中 基幹様　白井 桂子様
岩﨑 明彦様　田之上 あかね様
木本 博明様

編集後記

お気づきになられた方もおられると思いますが4月2日の「世界自閉症啓発デー」のイメージカラーを意識して今回は「青」を普段よりも多く使用しました。

熊本城をはじめ、様々な名所が青くライトアップされることで有名ですね。

いつか三気の里も青く照らされるように頑張ります。　森田